

「第四回 まちづくりびと 全員集合！」

開催レポート

平成26年9月27日（土）横浜市市民活動支援センターにて、「第四回まちづくりびと全員集合！」が開催されました。来年、ヨコハマ市民まち普請事業は開始から10年を迎えることもあって、パネルディスカッションも開催されました。

午前中は「26年度 二次コンテスト対象提案活動懇談会」と「25年度 整備成果報告会」を実施。活動懇談会では、今年度二次コンテスト対象グループ、審査員、過去に整備を終えたグループの方が同じテーブルで意見交換を行い、各グループにピンポイントでのアドバイスがなされました。整備成果報告会では、整備済グループの経験談より導きだされた活動のヒントなど、地域まちづくりのエッセンスに溢れた会となりました。



午後はパネルディスカッション&交流会。20~30代の新たな地域まちづくりの担い手と、横浜の地域まちづくりの支え手が、「多様な世代が関わるまちづくりのツボを考える」をテーマに意見を交わしました。もちろん話を聞くだけでは終わりません。その後、登壇者への質問を考えるという形式で、グループに分かれてディスカッションを行いました。そしてその質問をもって、登壇者を交えてのフロアディスカッション。最後には会場から自然と拍手が湧き起こる程に盛り上がった当日の様子は、新たに開設した地域まちづくり課“公認”のFacebookページで見ることができます（下記参照）。

ヨコハマ人・まち

-まちへ人がまちをつくる-

発行：横浜市 都市整備局 地域まちづくり課

TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641 Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

取材・編集：NPO法人 アクションポート横浜

TEL /FAX 045-662-4395 Email: info@actionport-yokohama.org

1 P ~ 3 P 横浜のまちの魅力にスポットライト!

4 P ヨコハマ市民まち普請事業「第四回まちづくりびと全員集合！」開催レポート
地域まちづくり課“公認”のFacebookページ「ヨコハマ市民まち普請ひろば」始めました

横浜のまちの魅力に スポットライト!

魅力あるまちづくりをすすめることを目的に平成11年からはじめた「横浜・人・まちデザイン賞」。地域まちづくりに功績のあった活動を表彰する「地域まちづくり部門」と、都市景観の創造や保全に寄与する建築物を表彰する「まちなみ景観部門」の二部門で、2年に一度、延べ73団体を表彰してきました。

表彰された団体が、その後どうなったか?は気になるところです。そこで、「地域まちづくり部門」で表彰された団体に活動の様子を伺いました。

横浜市都市整備局地域まちづくり課 “公認” のFacebookページ 「ヨコハマ市民まち普請ひろば」始めました。

ここは「ヨコハマ市民まち普請事業をもっと知ることができる場」
「横浜の地域まちづくりのタイムリーな情報が手に入る場」です。

Facebookに登録していなくても誰でも見られます。

- インターネットで「<https://www.facebook.com/yokohama.machibushin>」にアクセス
- または検索サイトで「まち普請ひろば」で検索



既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね!」をよろしくお願いします。
(Facebookページの運営は協働事務局のNPO法人アクションポート横浜が担当しています)

ヨコハマ市民まち普請事業とは…

地域住民の思いを形にすることでコミュニティの広がりをつくることを目的として、市民提案によるハード整備を支援しています。1年を通して行われる、2回の公開コンテストを通過した提案に対して、翌年度上限500万円の整備助成金を交付しています。参加団体が相互支援できる仕組みづくりにも取り組んでいます。

詳しい情報は、横浜市のホームページでご覧いただけます。

まち普請 検索 クリック

事前相談も随時受付中!

まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取組などの情報を下記までお知らせください。

メールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

《情報提供のあて先》

横浜市 都市整備局 地域まちづくり課

Email: tb-machizukuri@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方々への転送、お誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、ヨコハマ人・まち 検索 クリック



住民等による花壇の手入れ



第二回(平成14年表彰)
新横浜町内会

第三回(平成16年表彰)
片倉うさぎ山公園
あそび場管理運営委員会



公園内のプレイパーク



新横浜町内会

【受賞の理由】

新横浜町内会が受賞したのは、日韓ワールドカップの年でした。ワールドカップの開催に際し、海外からのお客様が迷わないようにサイン付きのフラワースタンドを設置したり、「新横浜パフォーマンス」をワールドカップ開催の街として最大限盛り上げるビックイベントとして行ったり、フーリガン対策にも積極的に取り組みました。これまでの町内会活動に加えて、それらの活動が評価されました。

【受賞による変化】

「町内会活動は昭和60年から始まり、それぞれの活動には歴史があります。平成14年にデザイン賞を受賞してから、緑化大賞や横浜市の環境活動大賞などもいただき、評価されることが増えてきました。そうした評価が、活動を後押ししています。」

【町内会の将来】

新横浜町内会は、もともと住宅の建設が許可されない街で、企業町内会からスタートしましたが、地区計画が変更されマンションが建てられるようになったことで、地域住民も参加する町内会へと変わっていきました。現在も会員2300のうち、企業会員が300社以上で構成されています。

町内会活動は現在8つの部会に分かれて活発に行われています。商工部は毎年30万人以上を動員する大イベント「新横浜パフォーマンス」を主催しています。このイベントは1991年に新横浜をオリジナリティ溢れる魅力ある街にするという目的のもと「企業文化祭」として始まりました。

環境部は清掃や花植え、子供向けの稲作体験の



今も現役のサイン付きのフラワースタンド



毎年大盛況の新横浜パフォーマンス

ほか、鶴見川を使ってのカヌー教室など、「これが町内会の活動？」と思うほどユニークです。

企業会員中心の町内会から、地域住民中心の町内会に変わり、活動内容も住民向けが多くなってきました。また、盆踊りや餅つき大会などは、地域住民以外にも開かれていて、これはワールドカップの歓迎イベントなど、地域外の方たちを対象にしてきた「よき伝統」でもあります。

「住民と企業とが一緒になったまちづくりを、今後もすすめていきます」という頼もしい新横浜町内会です。

第6回(2013年)の受賞活動

地域まちづくり部門
新治市民の森一帯の里山景観と生物多様性を守り育てる活動 (新治谷戸田を守る会/新治市民の森愛護会)
初黄・日ノ出町地区のアートによる安全・安心のまちづくり (特定非営利活動法人 黄金町エリアマネジメントセンター)
寺尾地区で身近なまちの暮らしを豊かにする活動 (寺尾地区福祉のまちづくり推進協議会)
港南区の歴史を後世へ伝承する活動 (特定非営利活動法人 港南歴史協議会)
高齢化が進む西柴を生き生きと暮らせる街にしたい (特定非営利活動法人 さくら茶屋にししば)
六角橋商店街の新たな企画 空き店舗を活用したドッキリヤミ市場 (六角橋商店街連合会)
下和泉地区での交通不便を解消 コミュニティバスの自主運営活動 (下和泉地区交通対策委員会)

片倉うさぎ山公園あそび場管理運営委員会

【受賞の理由】

片倉うさぎ山プレイパーク※1は、平成13年の片倉うさぎ山公園の開設とともに始まりました。元々地域で「子どもが自由に遊べる場所が欲しい」と活動されていた母親たちが、新たな公園建設の情報を知り、横浜市にかけあって住民参加型での公園づくりに取り組み、公園開設時からプレイパークの運営を行ってきました。この取り組みが評価されての受賞でした。

【受賞による変化】

当時、プレイパークの認知度がまだ低く、「地域のママさんたちが公園に集まっているけれど、何だろう？」と思う人がいる時期でもありました。

「賞をいただいて、連合町内会の方々をお招きして、お祝い会を開きました。この賞をいただいたのは、自分たちだけが頑張ったのではなく、地域の方々への支援があったからだと思っていたので、一緒に喜びたかったです」

実際に、このお祝い会で地域の方たちと一緒に喜び合うことができ、「単なるママさんたちの活動ではなく、地域の活動」という認識が変わっていきました。また、この受賞がミニコミ紙の一面に掲載されて、まちぐるみでプレイパークを盛り上げようという機運が高まりました。その後、



開設当時のプレイパーク。看板も手作りです。



ヨコハマ市民まち普請事業で整備した「うさきちハウス」

地域の運動会を片倉うさぎ山公園で開催するなど、公園と遊び場が、いっそう地域に開かれていきました。

【活動の発展】

活動は、ここからバージョンアップしました。18年度には「ヨコハマ市民まち普請事業」(4ページ参照)でプレイパーク管理棟の整備提案が整備助成対象に選考されました。19年度に整備が完了し「うさきちハウス」と名付け、今でも活用されています。また、プレイリーダー※2を雇用するための基金を積み立てていた時期でもありましたが、この頃から寄付が増えたそうです。

「公的な賞をいただいたのは、デザイン賞が初めてで、活動を展開し始めたところだったのでタイミングが良かった。受賞をアピールして、いろいろな助成金も得られるようになった。地域との連携も深まり、発展することができました」まさに、賞がきっかけで活動が発展したという片倉うさぎ山公園あそび場管理運営委員会です。

今回、お話を伺った二つの受賞団体は、それぞれ受賞をきっかけに活動を展開していました。受賞の後、他の表彰を受け、地域に浸透していったり、受賞が活動発展の契機となっています。

賞はこれまでの功績を表彰するものですが、受賞をきっかけに活動が羽ばたいたことが、賞のもう一つの効果ともいえます。

「横浜・人・まち・デザイン賞」は、自薦、他薦で申し込みができます。まちづくりに取り組む団体の皆様、次回の募集の際は、是非応募を検討してみてください。

プレイパーク※1…「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、禁止事項を極力なくした外の遊び場
プレイリーダー※2…子どもが地域の中でいきいきと遊び育つことのできる環境を多方面から整備する、遊び場づくりの専門職。